

はじまりの地
彼らはここで人質となった

AIP 若手映画プロジェクト 第1回支援作品

ファルージャ

イラク戦争 日本人人質事件…そして

出演：高遠菜穂子 今井紀明 監督：伊藤めぐみ

fallujah-movie.com

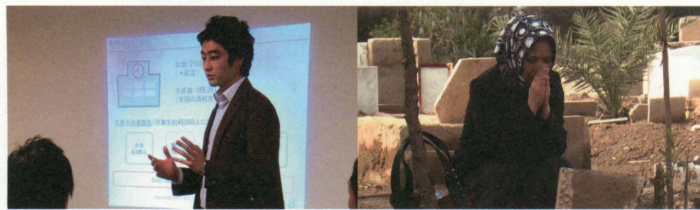
2013/日本/カラー/HD/95分 宣伝:カプリコンフィルム 製作・配給:有限会社ホームルーム

© 2013 有限会社ホームルーム 一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟

《テレビでは観られない タブーに挑んだ!!》

2004年、イラク戦争「日本人質事件」の当事者の現在を捉えたドキュメンタリー

イラク戦争から10年。当時、日本国内でバッシングが吹き荒れた「日本人質事件」のことを覚えているだろうか？イラク支援のために行った日本人3人。しかし、ファルージャの街で地元の武装グループによって日本政府へ自衛隊撤退を要求するための人質として拘束された。当時、日本政府はアメリカが始めたイラク戦争を支持。「人道復興支援」のためとして、イラクに自衛隊を派遣していた。日本では3人の軽率な行為が国に迷惑をかけたとして「自己責任」を問う声が広がった。この映画は、はからずも人質となった、高遠菜穂子さん、今井紀明さんの現在の姿を追ひ、そして未だ戦火の止むことのないイラク、ファルージャの生々しい現実を捉える。



高遠菜穂子さんは、事件後のPTSDを乗り越え再びイラク支援を続けていた。NGOなどの団体に加わるのではなく、一人でイラクに通い支援と調査を行っている。イラクでの先天異常児は戦争以後、今も増え続けているのが実態だ。またファルージャで撮影中にも現政府と、対立する宗派の抗争も発生していた。

一方、人質事件のもう一人、今井紀明さんは、5年の間、対人恐怖症に苦しんだ。現在は、大阪で不登校や、ひきこもりなどの若者を支援するNPOの代表をしている。社会から拒否された存在に、昔の自分をみて何かできないかと思ったという。

それぞれにとってあの戦争、あの事件が引き起こした問題は未だ終わっていない。

カメラは「国家的いじめ」に抵抗できなかった我々一人一人の「責任」も問う。考えさせられる映画だ。怖い映画だ。 — 鈴木 邦男(一水会顧問)

戦争は白旗をあげたら終わりじゃなくて続ける
— サヘル・ローズ(タレント)

ヒトの生き方を問う「警世」という表現が値するドキュメンタリーに出会って勇気を吹き込まれて心底嬉しく思う — 原 一男(映画監督)

ATP若手映画プロジェクト 第一回支援作品

監督:伊藤めぐみ プロデューサー:広瀬涼二

撮影:伊藤寛 大月啓介 大原勢司 編集:伊藤誠 音楽:吉田あさお 音効:早船麻季
デザイン・web制作:小川梨乃 宣伝:カブリコンフィルム 製作・配給:有限会社ホームルーム
©2013 有限会社ホームルーム 一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟

先天異常児、国内紛争 — まだ戦争が終わっていない国イラク
そしてそれぞれのその後



今のわたしたちにとって戦争は遠いものなのか？

監督はイラク戦争当時、高校生だった伊藤めぐみ。現在、テレビ番組制作会社でADとして働く28歳。10年前初めて社会に対し何かしたいと思い、高校生ながらデモに参加した。人質事件で世間からバッシングが巻き起こったことに関しても違和感を感じ続けていた。

今回、一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟(略称ATP)のATP若手映画プロジェクトにこの企画を応募。見事採用され、本映画が制作されることになった。

2013年12月7日(土)より新宿バルト9ほか 1週間限定上映!!以降全国劇場にて順次公開

全国共通鑑賞券、各種プレイガイド、劇場窓口にて販売中 ¥1,200(税込)

新宿バルト9 2013年12月7日～13日(03-5369-4955)

広島バルト11 2013年12月7日～13日(082-561-0600)

横浜ブルグ13 2013年12月21日～27日(045-222-6222)

梅田ブルグ7 2013年12月21日～27日(06-4795-7602)

T・ジョイ京都 2013年12月28日～2014年1月3日(075-692-2260)

T・ジョイ博多 2014年1月4日～1月10日(092-413-5333)